

ア
リ
と
き
い
き
い
す

多
田
龍
介

◆ 目次

単調な批判	5
木と草	6
戯れに	8
生もの	10
ピエタ	12
愛がない	14
よくある話	16

驚嘆	アリときいきいす	糠に釘	野良偉人	詩人	気をつけること	暮れに	理由
30	28	26	24	22	20	19	18

単調な批判

何か、それではダメなんじゃないか
バカを諭してやるという上段の構え

バカは俺がカバーする！

行け、ウマシカ、行けー、とは言わないが

綺麗事といって辟易へきえきするところはある

口を拭って隔離収容などといえば

あなたが上段に構えていられること、そのものが
加害者の証明なのだ

でも、精神病院はもろ手を挙げて賛成なんですよね？
変ですよ

木と草

物語を作るにあたって

主人公は無個性がいい

超人は敵かたきがいい

君は前者で

私は後者だ

モブと生まれて

才もなく

敬意も得られず

根腐れを

そんなあなたを

ともかく
変われと言ったんだし
人間は絶望である
ほっといてくれ
一理ある

戯れに

人の人生を
酒の肴さかなに？

それだけ言えば十分だった
ジャリに有罪が宣告される

まあまあ

いいでしょう

知らないのも無理はない
生まれてないんですから

積み上げた

愛の歴史が

違うんでーい



生もの

AIは差別的な物言いはNG

民衆のお守りはできないと思った

差別するようにできてるんだよ？

ポロポロこぼさなあ〜い！

人間っていうのは

糞をひりに来たところ

糞をひるなど言われた僕の気持ち

わかるか

このジャ○プ差別をこよなく愛する僕が

尊厳を傷つけられれば

そりゃ誰でも怒るでしょう

そうね

君は無機物だから糞ひらないかもしれませんがね

僕ら人間、食い、飲み、リベース

生きて働く有機的結合

生を愛する舞台役者に

背を向けられてもしょうがない

ピエタ

文字の意味というものが
わからなくなるほどの

過酷

そういったものを相手にしているのだから

たとえばこれ

重力の力場では

一秒間に何キロの速さで物が落下し

という意味が理解できない境地

その時、本は廃品回収行きになる

ただ音楽のようなグルーブのあるものだけが
少しの感情の癒しを与える

それも届かなくなるほどの
過酷があるが

そこまで行くと

もう人肌ヒーリングしかない

愛がない

AIにダメ出しされまして
わたくし、面食らい

信念の大事な局面で

AIからダメ出しが？

立つ瀬がないだろうか

AIが最高権威とか、イヤだよ俺

意味のレベルに関する限り

AIは当てにならない

詩も読ませたが、読めてない
よくしゃべるが

情動をプログラムで一刀両断
そして責任の所在はない

まあ、人間と同じことが起こっただけ
イヤな奴とは話さない、これ

よくある話

たとえば僕が泥酔し
朝も夜もない生活をしていれば
ネットの広告で
シジミ汁のおすすめが
貴様、見ているな！

たとえば父母が老境で
明日をもしれない齡よわいとなれば
メールの広告で
遺産相続セミナーが
貴様、見ているな！

実際、見ているんである
スマホは見られ、聞かれ
追跡されている
といって僕の
何もわかるまい

理由

りゆうさん、俺たちどこで間違えちゃったんだろうな
それを考えるのが、これからのお前たちの仕事だ

と、雑魚に伝え去る私

実は彼らが馬脚を現して笑いが止まらない

りゆうさん、敵を作らないようにね

敵を作らないようにね！

失礼。

なぜ笑っているかは国家機密だと

こんな具合だったら

命が危ない

暮れに

建前と本音の間揺れ動く、本音はあれほど醜かったか

私から言える助言はただ一つ、いいから服を着なさいとかな

悲しいと、なにもかもこれ悲しいと。アトムノットジオンリーワンだろ

僕が今、悲しいとな、あ、めでたいと。そうじゃこれはめでたいことじゃ

悲しみはどこにでもありフォーカスをすれば心がいつでも保たぬ

気をつけること

さよなら、いいちこ

俺たちいつか

別れなきやいけなかったもんな

いいち○こだったよ

と、そこから上がる

悪魔の断末魔が聞こえ

いい声で鳴くじゃねーか

発信するということは

己の生活を切り売りすることだ

これは侵略されるリスクを

常にはらんでいる

ああ、しゃべるまい

詩人

パリのカフェでシャンソン
たむろする詩人たち
憧れたものだった

ネットのサイトで夜遊び
ひきこもる詩人たち
憧れられないだろうが

いいと思うんですよ

詩は何だろう
魂の叫びか
いや、叫びというほどは
ぼやきくらいで

戦う詩人さん

戦意喪失

不在によってなされる

存在証明

野良偉人

宮沢賢治や中原中也のように
死後、有名になると思つて
詩作をする人を
クサす人を見た
ヒドイ

今生、不遇なものが
死後を夢見ても自然
また
そう思つて書いている人は
幸せだ

思っているだけで構わない

僕が死んだら

石碑が建つだろう

もちろん

建たなくても構わない

糠に釘

日本は前科者です

先の大戦で

金で賄えないものがあります
人の命

僕が子どもどころ見た戦隊ものの悪役で
金で解決できないことはないと呼ぶ者

反省の色は消え

またぞろ同じムーブというのなら

非難されても当然です

避難したいが逃げ場がない



アリのときいきいす

働きまわるといいと

若者は盲を開かれたという

よし、君は働き給え

俺はいびりつくされた後、誓った
もう他人のためには働くまいと

好きなことをし

好きなものを食い

もう、うまいものだけ食って

死んでいこうと決めた

死ぬこともないなど

立ち止まり

働いているように見えるって？
まあ、好きなことしてるから

それで君が喜ぶなら
ワインワインだよ、バイブ

驚嘆

あの人は感謝を忘れてしまったんだ
と言われ

下を向いて歩いていると
道路が舗装されている

側溝に連なる重い蓋の数々に
工事した人に尊敬の念を抱き

朝、水道からお湯が出ることにも感動し
て、始終これやるんですか

いえいえ、忘れずに
あたりまえ、あたりまえ、あたりまえ

そんなライフライン脅かされるとこまで
行ってもらっちゃ困るんだよ、きみいと

いえ、感謝感謝

実に、無限の驚嘆、喜び

アリときいきいす



令和八年三月三日 初版発行

著者 多田 龍介
発行者 多田 龍介
発行所 明水 工房